

令和6年度 第3回 柏市上下水道事業運営審議会

1 開催日時

令和7年3月14日(金) 15時00分～17時00分

2 開催場所

柏市上下水道局庁舎 4階 401・402会議室
柏市千代田1丁目2番32号

3 出席者

(1) 委員

落合委員(会長)、堀田委員(副会長)、佐藤委員、谷委員、秋元委員、石井委員、
小貫委員、小暮委員、廣瀬委員、川端委員、中川委員、杢富委員、山崎委員

(2) 事務局

飯田上下水道事業管理者、小川理事、須藤総務課長、野口経営企画課長、小池料
金課長、小池給排水課長、新井水道工務課長、松崎下水道工務課長、深山施設管
理課長 他

4 議題

(1) 諮問

(2) 柏市水道事業ビジョン・柏市下水道事業中長期経営計画
既存計画の評価と課題

5 報告事項

(1) 八潮市での陥没事故を受けて

(2) 柏市水道施設運転管理業務委託受託者の決定について

(3) その他

6 議事

議題 柏市水道事業ビジョン・柏市下水道事業中長期経営計画

既存計画の評価と課題

(水道の評価について)

質疑（小暮委員）、回答（事務局）経営企画課

Q. アセットマネジメントにおいて必要な事業が行われていない可能性があるという記載があるが、これはどういう意味なのか。

A. お金をかけずに効率的に目標を達成できているのか、必要な事業が実施できなかったのかを現時点では判断することができないため、可能性という表現にしている。今後アセットマネジメント検討を行ったうえで、評価が確定した後に修正することを予定している。

質疑（佐藤委員）、回答（事務局）給排水課

Q. 10年間の途中で目標が変わっているのはなぜか。

A. 5年経過後に中間見直しを行っており、最初の5年の実績を踏まえて目標を再設定しているため、途中で目標が変わっているものがある。

Q. 応急給水の避難訓練の目標数値が下がっているのはなぜか。目標数値を下げたことで実績が目標を上回っているように見えるがこれはどのように解釈したらよいか。

A. 上下水道局が行う応急給水訓練のみの回数を記載するよう変更したためである。訓練自体が減ったというより記載する指標の内容を変更したということでご理解いただきたい。

意見（佐藤委員）

資料にそのような経緯についてコメントを加えたほうが分かりやすいと思う。ご検討いただきたい。

質疑（佐藤委員）、回答（事務局）経営企画課

Q. 多くの観点から分析されていてよいと思うが、目標を細かく設定することでかえって抜けてしまっている内容はないか。例えば北千葉広域水道企業団から受水しているが、そちらとの連携や給水が停止してしまった時の対応などの観点も必要ではないか。

A. 後半でご説明する下水道は大まかな目標設定であり、この部分についても上下水道でそろえていく予定である。水道は細かい指標が多く、何が重要か分かりにくい現状にあるので、次期ビジョンでは重点指標をしぼるなど改善したいと考えている。

意見（堀田委員）

Q. 今回の資料では、計画として掲げた目標を達成できているかという評価をしている。当時の計画は、事業の実施状況などを評価するアウトプットの目標が多い。しかし、八潮市で発生した事故を踏まえると、管路の健全度について十分把握できているかという視点があり、進行する老朽化に対して適切に対応できているのかという評価をするべきではないか。本来はアウトプットではなくアウトカムで評価するとともに、そのような評価指標を計画に盛り込むべきではないか。

（下水道の評価について）

質疑（廣瀬委員）、回答（事務局）経営企画課

Q. 内容の評価について、取り組みだけでなく事業費も踏まえた評価なのか。
A. 事業費は加味せず、事業の進捗を踏まえて評価を行っている。計画年度が最後まで終わっておらず、評価ができないためである。最終的には事業全体の財政収支として評価したいと考えている。

質疑（中川委員）、回答（事務局）総務課

Q. 現在発行されている広報紙は上下水道局独自のものなのか。
A. 上下水道局として統合される前は、それぞれで発行していた。現在は市が発行する広報紙（全戸配布）に内容を掲載する形をとっている。

意見（中川委員）

委員としては、全戸配布の広報紙により、たくさんの人に上下水道の取組状況を知ってもらえるような機会を作ってほしい。

質疑（佐藤委員）、回答（事務局）経営企画課

Q. 下水道の指標は、実施・未実施で評価される目標が多いので、数値で判断できるような目標を立ててもよいのではないか。柏市は施設の維持管理をしっかりとやっているという印象を受けた。ポンプ場など大きな施設の改築に向けて、長期的な計画も盛り込まれるとよいと思った。
A. 水道はこれまで厚生労働省管轄であり、業務指標（PI）で評価するよう全国的に指導されてきたが、下水道では当時は数値目標設定が難しい状況であった経緯がある。今後は独自指標も含めご議論いただき、定量的に評価できる指標を検討したい。

意見（佐藤委員）

詳細に管理することと大枠で管理することは、どちらが正しいといえるものではないので、今回の計画策定で実効性の高い計画を目指してほしい。

（課題整理について）

質疑（川端委員）、回答（事務局）下水道工務課

Q. 災害対策について、災害用トイレに接続する管路は、継手の免震化を行っているのか。

A. マンホールに接続する管路に可とう性を持たせることによる耐震化を実施している。管路については、強度が不足する部分は内面に塩化ビニル管を入れて管更生を行っている。

Q. 柏市では人口が増加しており、山林や田畑であった場所にマンションや商業施設が建つことで、以前よりも排水量が増加している。100年に一度の降雨に税金を使うものでもないと思うが、降雨量をどのように設定しているのか。

A. 今までは市内一律 50mm/h としていたが、国より地域の浸水リスクを評価して設定するように指示を受けている。柏市では来年度、雨水管理総合計画を策定する予定である。降水シミュレーションを行い、必要な降雨強度を設定していく予定であり、その後事業計画に反映していく。今後は場所の重要度に応じて計画雨水量を変えていくなどメリハリをつけた計画を考えている。

Q. 計画降雨を見直したことで、流量に対して管径が足りない場合は、管きょの更新を行うのか。

A. 下流部の更新ができない場合、上流部で一時的に貯水する方法についても検討する。

質疑（小暮委員）、回答（事務局）給排水課

Q. 水道の耐震化について、能登半島地震においては早期の復旧が課題となっていた。資料では課題の記載がないが、その点どうなのか。ガス事業においては、資機材の置き場所や応援部隊の受け入れ場所確保が問題である。柏市の上下水道局ではそのような問題は無いのか。

A. 資機材の置き場所は水道事業でも課題である。柏市内の空き地を資機材置き場に使えるか、交渉中である。その交渉が成功したとしても依然資材置き場は不足しているため、さらなる検討を行っている。

意見（小暮委員）

電気ガス事業 NTT などインフラ企業はどこも状況は同じなので、今後ご相談も必要になるかと思い発言した。今後も引き続きご協力をお願いしたい。

意見（落合委員長）、回答（事務局）経営企画課

Q. 資料に課題がなく方向性のみ記載がある。課題の記載がないのはなぜか。

A. 既存計画についての課題であり、今後新たに発生する将来も含めた課題は今後検討を行い、次期ビジョンに反映させていく。

Q. 上下水道耐震化計画は具体的なものができているのか、概要のみできているのか。

A. 具体的計画を策定済みである。今後5年間の事業内容について策定しており、重点的に耐震化する方針である。次期ビジョンにもその内容を盛り込みたい。

質疑（堀田委員）、回答（事務局）水道工務課・下水道工務課

Q. 降雨強度について、どれくらい詳細に決める予定であるのか。東京都は、75mm を目標として貯留池や地下河川など具体的な対応策を設定し、地下河川の建設に向けて動き出している。柏市では今回の計画に具体的事業も含めることを考えているのか。

A. 浸水対策の計画は短期・中期・長期に分けて、概ね20年の目標を定め、整備スケジュールも設定して実施していく予定である。

Q. 官民連携について、ウォーターPPP等を含めて、どれほど詳細に決める予定であるのか。

A. 下水道の管路包括に合わせて、水道も行うことができないか、検討しているところである。できれば、ウォーターPPPに参画したいと考えているが、現時点では決まっていない。

質疑（中川委員）、回答（事務局）水道工務課・下水道工務課

Q. 水道、下水道両方の老朽管について、八潮の事故を受けて耐用年数を超えている管だけでなく耐用年数未満の管についても調査を行ったのか。今までのやり方ではなくドローン等の新技術を使った老朽管の調査の実績または実施予定はあるのか。

A. 下水道事業について、ストックマネジメントで予防保全を行う計画を立てている。調査を進めており全1348kmのうち約700km程度調査は終わっている。流域下水道との接続部分や硫化水素が発生しやすい場所について緊急点検を行い、大きな管の上を歩いて陥没がないかの点検を行った。現在実施中の第二期包括では民間

からの技術提案により管路の中を自走するカメラで点検を行っているので高い精度で確認できていると考えている。耐用年数前であっても、管路内調査の結果に応じて老朽化対策等の対応を行っている。

水道事業についても、八潮の事故を受けて緊急点検を行った。過去の地震発生時の被害データ等を踏まえた報告書や他の事業体の設定を参考にして、柏市独自の更新基準年を設定して対応している。調査は新技術も出てきているが、費用や信頼度の問題がありまだ取り入れていないが、今後も勉強研究していく。採用になれば次期ビジョンの指標として取り入れるかどうか検討していきたい。

意見（落合委員長）

新しい技術を取り入れながら次期ビジョンに反映すること。

質疑（落合委員長） 回答（事務局） 総務課

Q. 人材育成について、職員が減少している現状においてうまくいくのか。職員を増やすという方向性を書くことはいかがか。

A. 職員を増やすことについて、市全体の人事もあるため、正直なところハードルが高いと考えている。現場で行う工事は市の職員ではなく市内の企業に委託を行っている。その前段階は市の職員が担う部分であり、若手の職員が増加していることから経験を積ませるために、積算や設計等の業務をベテラン職員がいるうちに教育していきたいと考えている。上下水道局だけでできる話ではないので、適切に経験が積めるよう市長部局に要請している。また、近年は転職する若手職員が増えているため、育成した人材に残ってもらうことも重要である。官民連携を活用するなど民間とのバランスをとり人件費にも目を配りながら事業を進めるということが課題だと考えている。

意見（落合委員長）

育成という名のもとに業務が増えてしまい離職される要因となってしまうのではないので、人材育成をうまくやってほしいと思う。

報告事項（1）八潮市での陥没事故を受けて

質疑（山崎委員） 回答（事務局） 下水道工務課

Q.緊急点検はどれくらいのスピード感で行ったのか。

A.流域の接続点、国道の調査は2/3～2/5に行った。流域下水道に係る管きよについては業者に委託した。800mm以上の管の上を歩いて調査したのは2/17である。

報告事項（2） 柏市水道施設運転管理業務委託受託者の決定について

質疑なし

報告事項（3） その他

質疑なし

7 傍聴

傍聴者 1 名